



2006年度決算説明会

東洋紡

取締役社長 坂元龍三

2007. 5. 9

目次

1. 06年度決算の概況
2. 07年度業績予想
3. 2010年に向けて
4. 訴訟関連

(補足資料)

- ・時系列データ
- ・めざす姿
- ・重点事業の拡大施策

1. 2006年度決算の概況

3期連続で過去最高益を更新、安定収益体質に。

(1) 売上・利益

(億円)

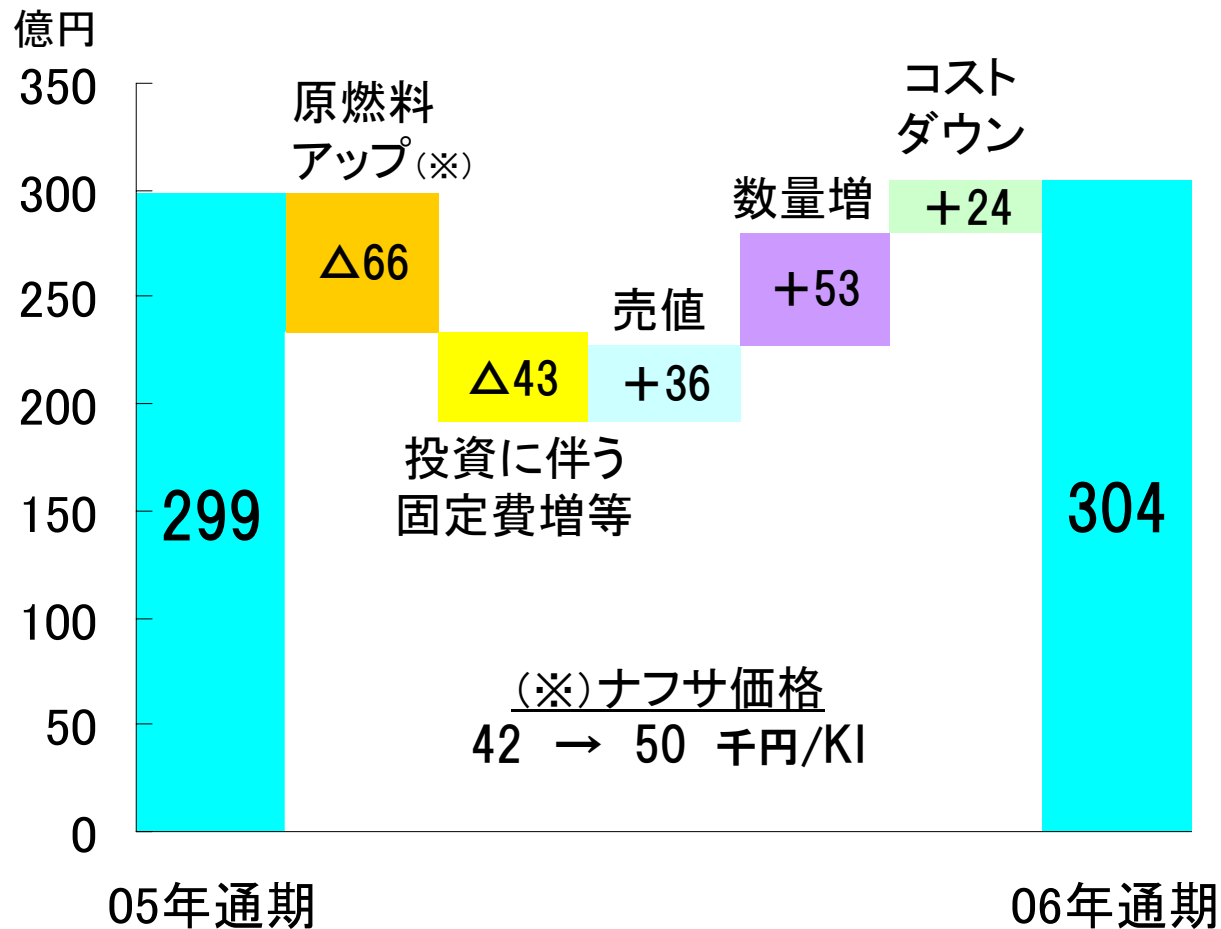
	05年度	06年度	増減	
売上高	4,019	4,267	+247	+6.1%
営業利益	299	304	+5	+1.8%
営業利益率(%)	7.4%	7.1%	—	—
経常利益	246	253	+8	+3.1%
特別利益	130	65	△65	—
特別損失	△160	△117	△43	—
当期純利益	126	135	+9	+7.0%
一株当たり利益(円)	18.1	19.3	+1.2	+6.7%
減価償却費	157	169	+13	+8.2%
為替レート(円/US\$)	114円	117円		



1. 2006年度決算の概況

原燃料アップ 66億円を吸収し、増益を確保。

(2) 営業利益増減分析



1. 2006年度決算の概況

財務体質も着実に改善。D/Eレシオは1.45に。
(目標を前倒しで達成)

(3) 財務指標

(億円)

	05年度(末)	06年度(末)	増減
営業利益	299	304	+5
総資産 (営業利益ROA)	5,148 (5.8%)	5,132 (5.9%)	△16
自己資本 (自己資本比率)	1,251 (24.3%)	1,335 (26.0%)	+84 +1.7
有利子負債 D/Eレシオ	2,062 1.65	1,942 1.45	△119 △0.20
営業C F	273	271	△2
投資C F	△40	△29	+11
財務C F	△231	△224	+6

1. 2006年度決算の概況

(4) セグメント別

(億円)

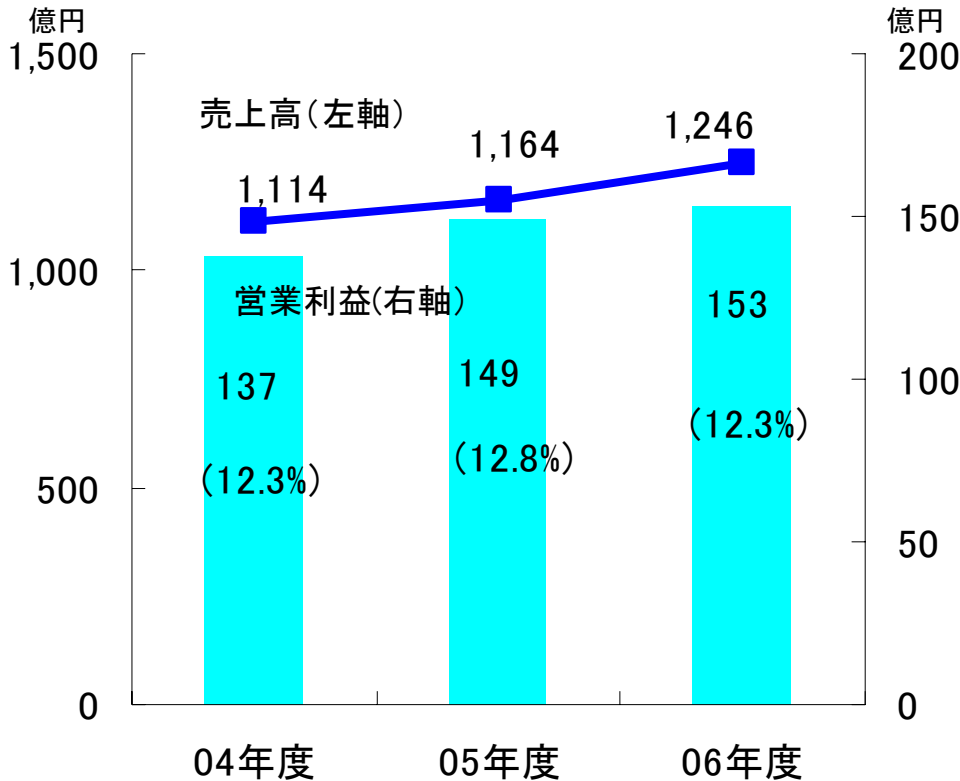
	05年度		06年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
フィルム・機能樹脂	1,164	149	1,246	153	+83	+4
産業マテリアル	689	58	744	59	+55	+1
ライフサイエンス	297	56	326	56	+30	△0
スペシャルティ計	2,150	263	2,316	268	+167	+5
衣料繊維	1,425	34	1,496	44	+71	+10
その他	445	30	454	25	+10	△5
消去・全社		△28		△32		△4
合計	4,019	299	4,267	304	+247	+5



①フィルム・機能樹脂

(包装用フィルム、工業用フィルム、エンジニアリングプラスチック、工業用接着剤、印刷材料、アクリレート系樹脂)

- ・ 液晶光学用フィルム、自動車用エンボラが堅調
- ・ 原料高の中で、全体では+2.6%増益



減価償却費	—	53	65	億円
使用総資本	—	1,197	1,262	

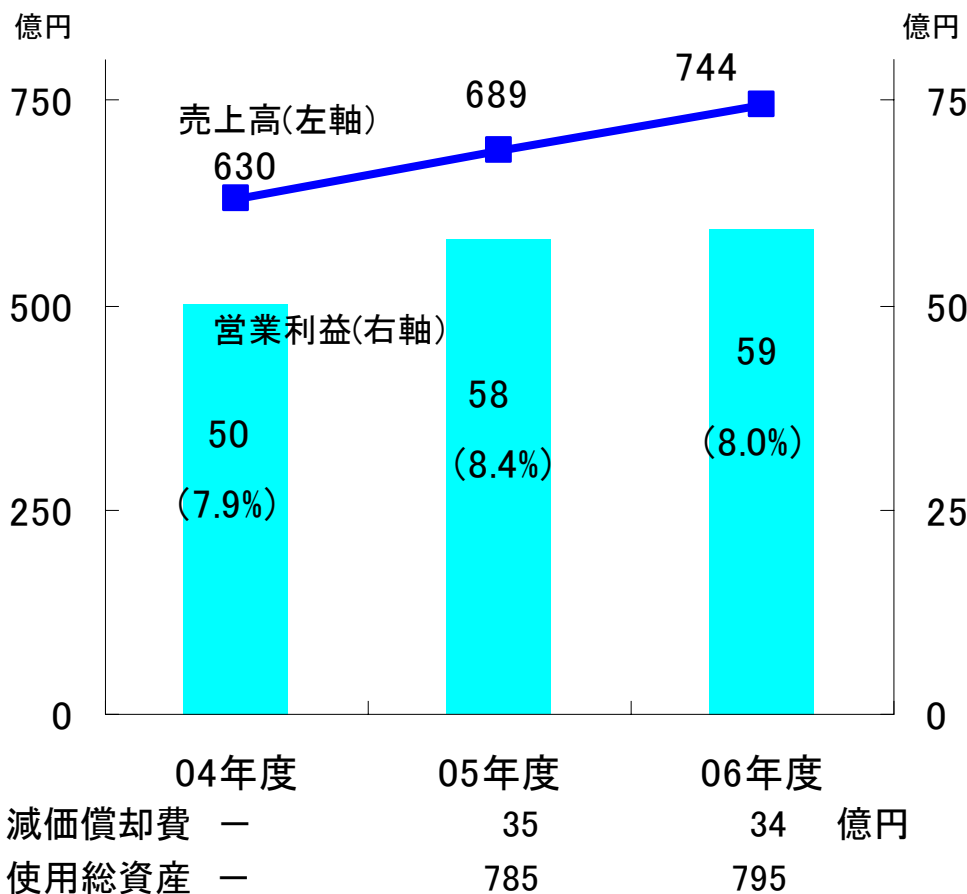
- ①工業用フィルム
液晶光学用フィルムが堅調を維持
- ②包装用フィルム
一部で価格転嫁が遅れ、増収減益
上海ナイロンフィルムが苦戦
- ③エンジニアリングプラスチック
自動車向けが好調
主力顧客との取組み進展
- ④工業用接着剤「バイロン」
電子部品用途中心に拡大



②産業マテリアル

(自動車用繊維資材、スーパー繊維、機能フィルター、不織布)

・エアバッグ用基布、機能フィルター、スーパー繊維が堅調



①エアバッグ用基布

海外での需要が堅調

②機能フィルター

バッグフィルター用高耐熱繊維: 好調

溶剤回収装置: 液晶関連工場向け堅調

③スーパー繊維「ダイニーマ」

安全手袋用、船舶用ロープ、釣糸好調

08年初に増設分稼動

④不織布

自動車用途中心に堅調

⑤タイヤコード、ポリエステル短繊維ほか

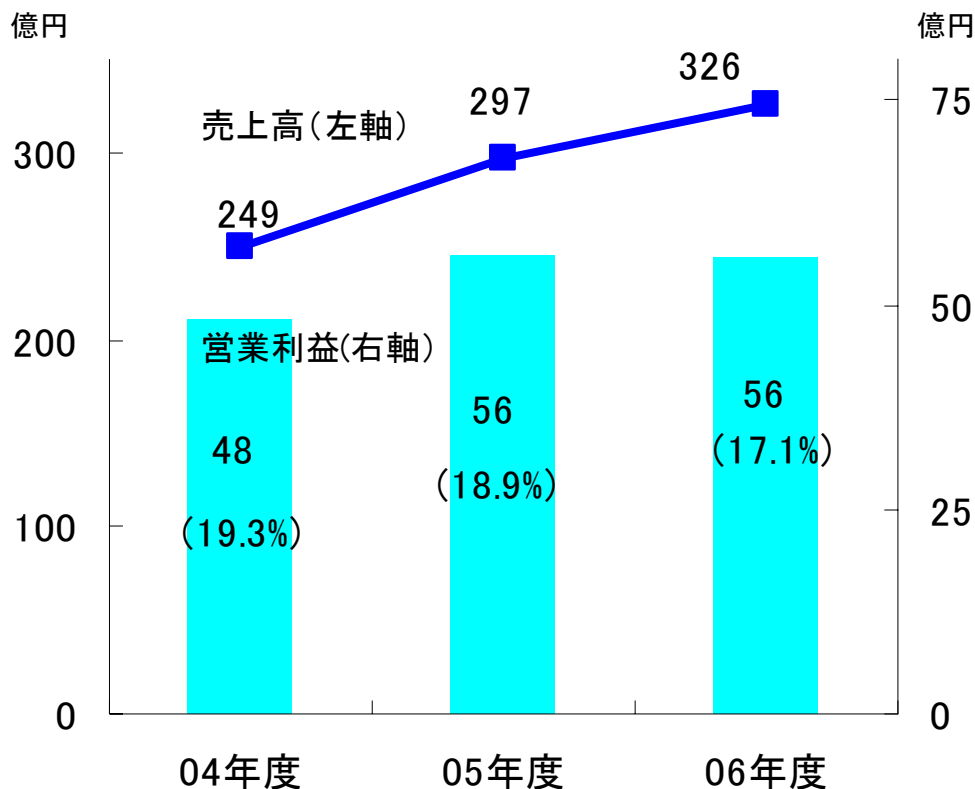
原燃料高騰の影響で苦戦



③ライフサイエンス

(診断薬用酵素・診断システムなどバイオ製品、
医薬品製造受託、医用膜、医療用具、アクア膜)

・薬価改定の影響を受けたものの、バイオ関連の安定収益
継続などにより、利益横這い確保。



減価償却費	—	22	25	億円
使用総資本	—	347	368	

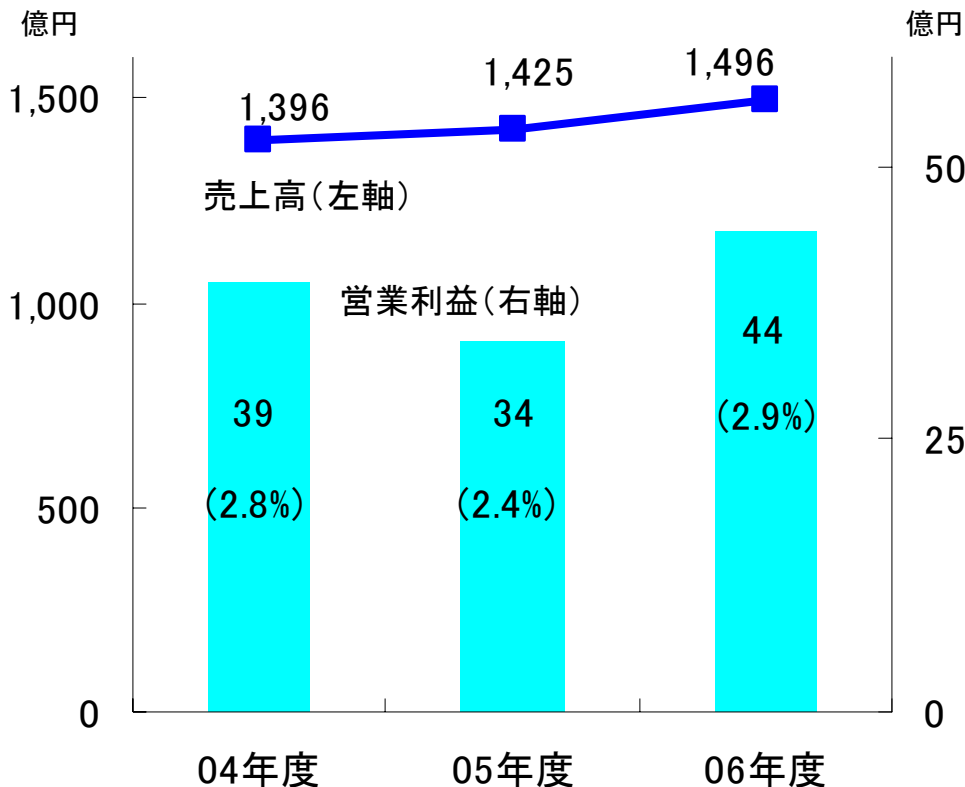
- ①人工腎臓用中空糸膜
06年4月の薬価改定の影響あるも
新製品投入で下期から挽回
- ②医薬品製造受託
新設備本格稼動に遅れ(06年末～)
- ③バイオ関連
血糖値測定用酵素堅調
- ④アクア膜
中東大型案件進展



④衣料繊維

(衣料テキスタイル、アパレル製品、衣料ファイバー、
アクリル繊維、繊維商社 ほか)

- ・機能衣料への絞りこみ、構造改善の効果あらわれる。
- ・関係会社も含め、更なる改革に挑む。



①衣料テキスタイル

機能性衣料へ特化し、海外向けも好調。
関係会社との一体経営へ

②衣料ファイバー

スパンデックス繊維「エスパ」の自社生産
休止、赤字大幅圧縮

③関係会社

一部を除き大幅改善

④繊維のマスタープラン実行着手

資産効率重視の経営

減価償却費	—	27	26	億円
使用総資本	—	1,406	1,331	
ROA (%)	—	2.4	3.3	

2. 2007年度業績予想

(億円)

	06年度 実績	07年度予想			通期増減	
		上	下	通期		
売上高	4,267	2,150	2,200	4,350	+83	+1.9%
営業利益	304	155	150	305 (330)	+1	+0.3%
営業利益率(%)	7.1%	7.2%	6.8%	7.0%	—	—
経常利益	253	130	125	255 (280)	+2	+0.8%
当期純利益	135	65	70	135	—	—
一株当たり利益(円)	19.3	9.3	10.0	19.3	—	—
配当(円/株)	5.0(予定)	—	—	5.0	—	—
減価償却費	169	—	—	192	+23	—
設備投資	158	—	—	237	+79	—
研究開発費	104	—	—	108	+4	—

注：()は償却資産残存簿価償却前利益



2. 2007年度業績予想

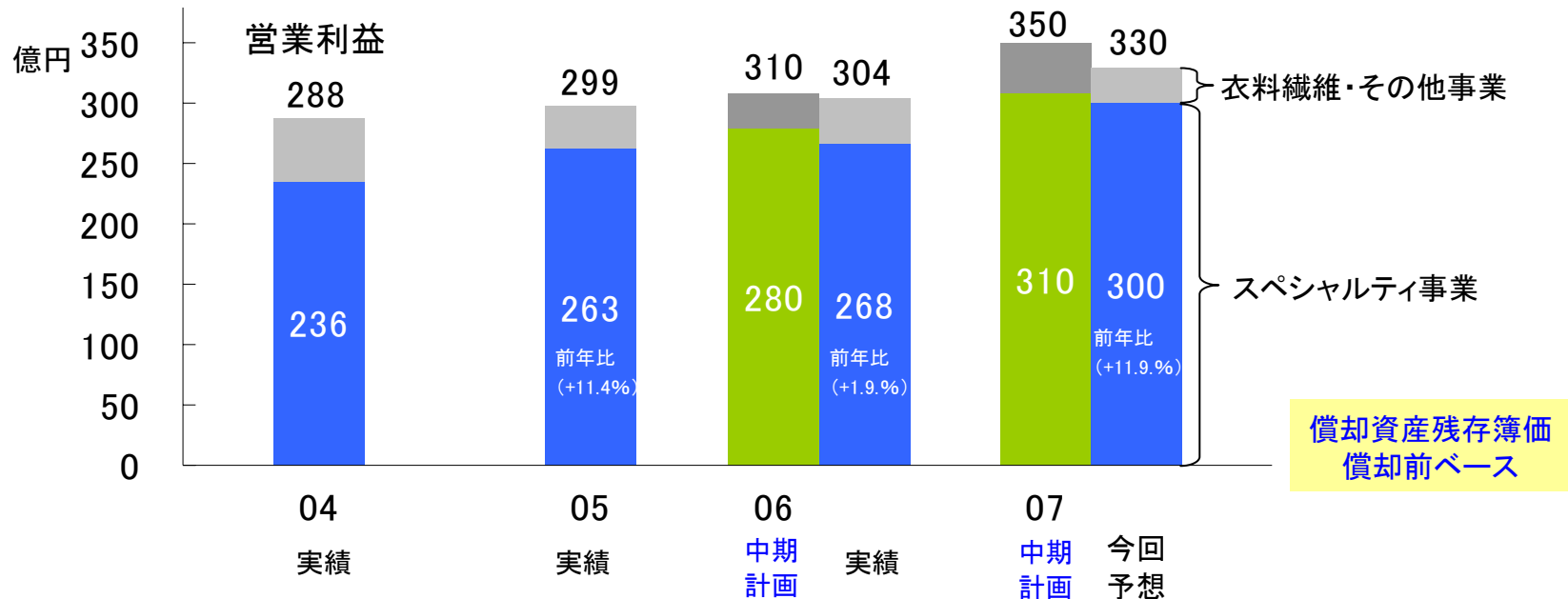
(億円)

	06年度		07年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
フィルム・機能樹脂	1,246	153	1,380	162 (170)	+134	+9
産業マテリアル	744	59	790	61 (67)	+46	+2
ライフサイエンス	326	56	360	62 (63)	+34	+6
スペシャルティ事業計	2,316	268	2,530	285 (300)	+214	+17
衣料繊維	1,496	44	1,410	37 (45)	△86	△7
その他	454	25	410	19 (20)	△44	△6
共通		△32		△36 (△35)	—	△3
合計	4,267	304	4,350	305 (330)	+83	+1

注:()は償却資産残存簿価償却前利益

2. 2007年度業績予想

中期計画の進捗: 利益目標に届かず



- ・スペシャルティ事業は、全体では着実に拡大。
- ・ただし、スペシャルティ事業も二極化（環境変化への対応力）

07年度最大課題

スペシャルティ事業: 「群生・資源分散」から「選別・資源集中」へ

3. 2010年に向けて

—重点事業の拡大領域—

セグメント／事業		市場	自動車	電子・情報表示	環境	生活安全	ライフサイエンス
フィルム・機能樹脂	機能フィルム			液晶光学用PET			
	機能樹脂		エンプラ	工業用CPP			食品包装用...
	次世代電子材料			工業用接着剤	PET新触媒		
産業マテリアル	エアバッグ用基布		エアバッグ用基布				
	スーパー繊維						高強力PE繊維
	機能フィルター		エンジン用、キャビン用	耐熱性フィルム	溶剤回収装置、 バグフィルター		
ライフサイエンス	バイオ						機能タンパク質
	医薬						診断システム
	医用膜						医薬製造受託
	アクア膜						人工腎臓用中空糸
							RO膜、上水膜

3. 2010年に向けて

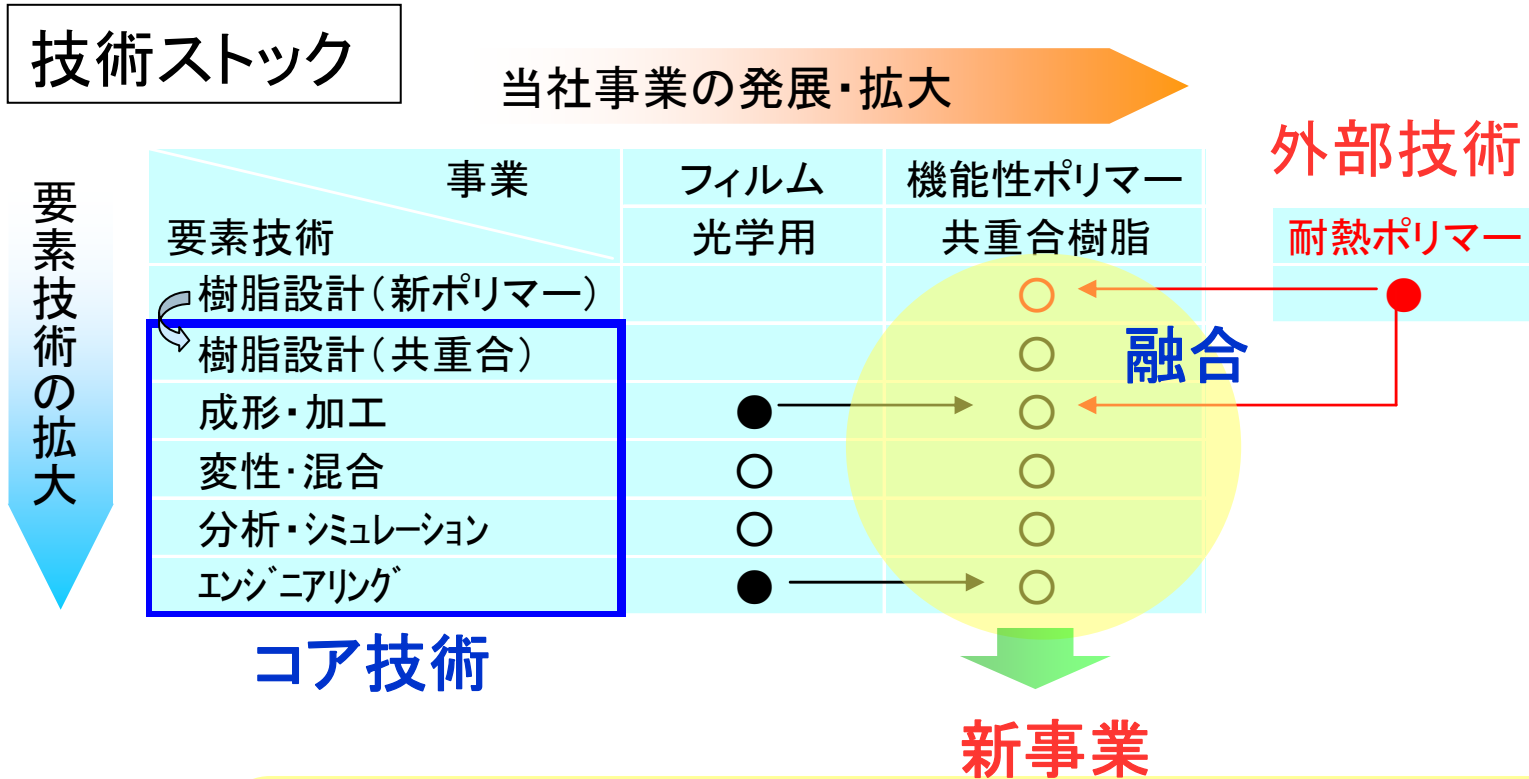
・重点事業に資源集中

・新事業の早期離陸

重点事業	投資金額 (億円)	投資内容・能力	稼動時期
液晶光学用PETフィルム	100	+10,000トン/年	2008年春
光学用無延伸PPフィルム	20	+4,000トン/年	2008年夏
エンジニアリングプラスチック	—	重合・コンパウンド	2009年
次世代電子材料	—	事業化・量産化	2010年
ダイニーマ (日本ダイニーマ)	16	+600トン/年 (現行能力比1.6倍)	2008年初
エアバッグ用基布	50	紡糸+5,000トン/年	2009年
人工腎臓用中空糸	25	需要に応じた拡大	2007-8年
海水淡水化用モジュール	15	現行能力比2倍	2008-9年

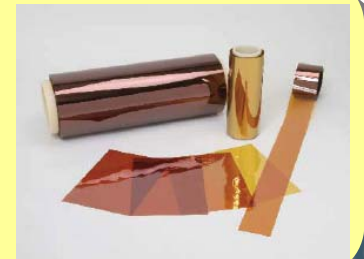
3. 2010年に向けて

—新事業創出(技術ストックを活かして)—



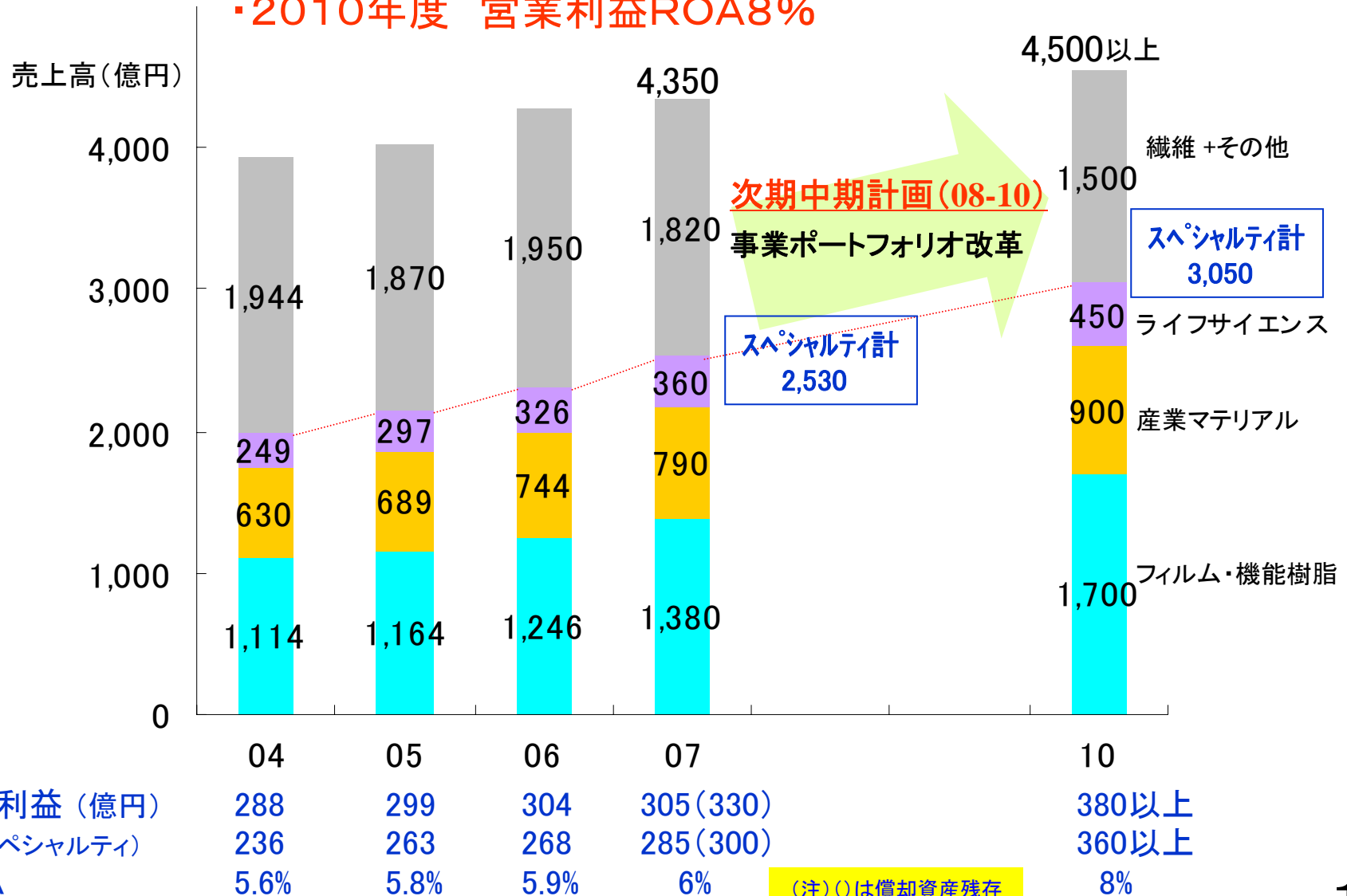
回路基板用 耐熱性ポリイミドフィルム

- ・寸法安定性(シリコン同等の線膨張係数)
- ・耐熱性(500°C)



3. 2010年に向けて

- ・スペシャルティ事業: 売上高 年率7%成長
- ・2010年度 営業利益ROA8%



(注) ()は償却資産残存
簿価償却前ベース

4. ザイロン訴訟状況

<概要>

- ① 2003年6月、ザイロン繊維使用の防弾ベスト事故(米国ペンシルバニア)(貫通事故は1件のみ)
- ② 事故被害者、同種ベスト購入者等が、防弾ベストメーカー、当社に損害賠償請求を提起
- ③ 防弾ベストメーカーの元取締役が米国不正請求禁止法に基づく訴訟を提起、米国政府(司法省)がこの訴訟に原告として参加
- ④ 購入者からの集団訴訟は 原告団との和解成立(和解金等(約44億円)05上特損処理) 事故被害者からの訴訟(PL関連訴訟)も、和解により解決
- ⑤ 弁護士費用 15億円(06年度)、15億円(05年度)

<訴訟状況>

(07.5.8現在)

	クラスアクション	PL関連			政府関係	その他	政府関係
原告	購入者	ペンシルバニア 警官	カリフォルニア 死亡警官	カリフォルニア 負傷警官	米国司法省 ほか	セカンドチャンス	ドイツ2州政府
状況	和解成立 (05/10/26)	和解成立 (06/1/10)	和解成立 (06/11/8)	和解成立 (07/1/11)	訴状受取後 動きナシ	修正訴状提出 証拠開示手続	却下判決 (管轄なし) (07/4/13)
件数	10件	1件	1件	2件	2件	1件	1件

…前回(06年11月)より進捗有り



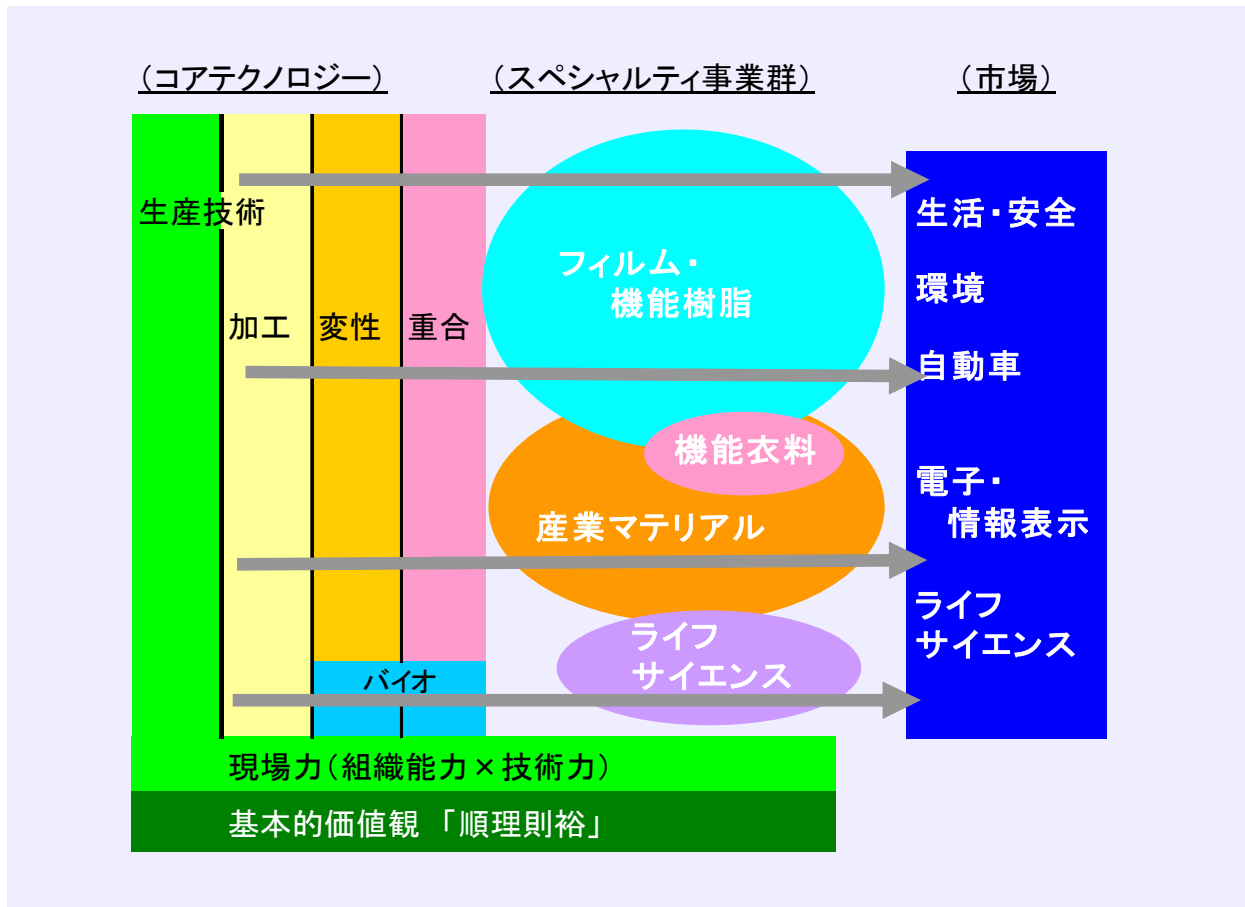
補足資料:時系列データ

連結決算業績推移

		03年度		04年度		05年度		06年度	
		実績		実績	対前期 増減率	実績	対前期 増減率	実績	対前期 増減率
売上高	百万円	373,066		393,686	+5.5%	401,948	+2.1%	426,666	+6.1%
営業利益	百万円	25,856		28,782	+11.3%	29,887	+3.8%	30,435	+1.8%
(営業利益率)		(6.9%)		(7.3%)		(7.4%)		(7.1%)	
経常利益	百万円	17,491		21,589	+23.4%	24,580	+13.9%	25,342	+3.1%
(経常利益率)		(4.7%)		(5.5%)		(6.1%)		(5.9%)	
当期純利益	百万円	8,762		12,207	+39.3%	12,596	+3.2%	13,472	+7.0%
(当期純利益率)		(2.3%)		(3.1%)		(3.1%)		(3.2%)	
1株当たり当期純利益	円	12.63		17.58	+39.2%	18.10	+3.0%	19.32	+6.7%
自己資本当期純利益率		9.3%		11.5%		10.8%		10.4%	
総資産経常利益率		3.4%		4.3%		4.8%		4.9%	
総資産	百万円	495,969		511,813	+3.2%	514,791	+0.6%	513,191	▲0.3%
自己資本	百万円	104,033		107,518	+3.3%	125,143	+16.4%	133,521	+6.7%
(少数株主持分を除く)									
自己資本比率		21.0%		21.0%		24.3%		26.0%	
1株当たり純資産	円	149.31		154.64	+3.6%	179.59	+16.1%	191.28	+6.5%
有利子負債	百万円	240,755		220,981	▲8.2%	206,172	▲6.7%	194,239	▲5.8%
D/Eレシオ	倍	2.31		2.06		1.65		1.45	
設備投資額	百万円	13,330		16,395	+23.0%	18,131	+10.6%	15,753	▲13.1%
減価償却費	百万円	15,425		15,528	+0.7%	15,656	+0.8%	16,938	+8.2%
研究開発費	百万円	9,043		9,201	+1.7%	10,079	+9.5%	10,426	+3.4%
従業員数	人	9,454		11,468		11,705		11,755	

補足資料: 当社のめざす姿

コアテクノロジー(重合・変性・加工・バイオ)を駆使して、
新しい価値を創出し続ける高機能製品メーカー



補足資料:重点事業の拡大策

主な事業	市場	06年度	07年度	08～09年度
工業用フィルム	情報表示	●新系列稼働(液晶・光学用)		○新系列稼働(+10千トン/年)
包装用フィルム			○非包装分野展開	○新設備稼働
機能樹脂(エンブラ他)	自動車	●エラストマー新商品	●米国・中国:販売拠点強化	○能力増
電子材料	電子		●次世代回路基板材料事業化	○量産化
エアバッグ用基布	自動車	●能力増強	○能力増強(+2千トン)	○コートタイプ本格参入 ○能力増強(+5千トン)
スーパー繊維	安全・生活			○新系列稼働(日本ダイニーマ)
機能フィルター	環境・自動車	●溶剤回収装置拡大	○自動車海外展開対応強化	
人工腎臓用中空糸	医療	●能力増、新タイプ切替	○能力増	
バイオ(診断システム)	医療・健康	●新製品投入		○遺伝子診断システム開発
アクア膜	水	●新設備稼働(RO)	●上水分野参入	○増設
		●実施・着手	○予定・計画中	
設備投資(億円/年)		158	237	200以上

●実施・着手

○予定・計画中

本資料取扱い上のご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。